

自己評価報告書(最終報告)

報告者

言語系コース(国語)
／幾田 伸司

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ－1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

- ① これまで国語科教育実践力の総合的伸張を目指し、特に教材分析力、授業構成力、及び教師としての言語表現能力の伸張を図る授業を行ってきた。授業評価等から、前年までの授業形態は受講者からおおむね肯定的に受けとめられており、成果も上がっているととらえられる。
- ② そこで、前年度の授業を踏襲し、受講者の主体的活動を取り入れた授業、及び受講者の課題意識や内容理解を把握しながら進める授業を継続する。具体的には、模擬授業や指導案作成の場を設定するとともに、表現活動とその相互評価、討議の場の確保、授業に対する感想収集の継続的実施を行う。
- ③ 授業内容の理解、受講者の授業への主体的参加、上述の各能力の伸張を総体的に評価する。具体的には、授業感想や課題、授業への取り組みの観察、調査やレポートを総合して評価を行う。

2. 点検・評価

平成23年度の授業については、年度目標で掲げた目標、授業方法、評価方法に基づいて実施した。担当の学部授業における、年度目標で掲げた目標、各種活動の実施状況は次の通りである。

初等国語科教育論：教材分析力・授業構成力の基礎の習得を図る。
授業感想収集を継続的に実施し、受講者の課題意識や内容理解を把握しながら授業を実施した。

初等中等教科教育実践Ⅲ・中等国語科授業論：教材分析力・授業構成力の習得・定着を図る。
模擬授業や指導案作成、討議等を行った。

国語科教育特論：受講者の言語表現能力の伸張を図る。
表現活動や相互評価を取り入れるとともに、討議の場を設定した。

中間報告でも示したとおり、授業評価アンケートの結果ではいずれの授業の総合評価も4.4ポイント以上であり、受講生からの評価も得られていると判断できる。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ① Iで挙げた各種の活動を取り入れ、実践的能力の育成を目指す。
- ② ゼミの指導においては、ゼミ生相互が活発に議論できる学習環境を作るとともに、研究・調査の手引き、レポート・論文の書き方等が習得できるように、適宜、助言・指導を行う。
- ③ 学生・院生の相談には随時応じ、生活・学習の両面について支援を行う。

2. 点検・評価

- ① I-1で述べたように、目標に掲げたように授業を構想し、実施した。
- ②③ ゼミ指導をはじめ、授業の事前指導や教員採用試験対策など、学生・院生の学習や生活に対して授業外でも積極的に指導・支援を行った。

II-2. 研究

1. 目標・計画

- ① 科学研究費補助金として採択されたノンフィクション教材史を主眼とした国語科教科書教材史研究、及び文学教材の教材分析論について研究を進め、学会発表、学会誌等への投稿を行う。
- ② 学内外の研究者と連絡して、国語教科書研究、及び国語科教育全般についての研究を進める。

2. 点検・評価

- ① 目標で掲げた各研究領域等について、学術論文1点、紀要論文4点、その他1点(書評)を公刊するとともに、学会等発表2件を行った。
- ② 科学研究費補助金に採択された代表研究1件、共同研究2件について、研究を進めた。研究成果は、代表研究については①に掲げた論文のうち2編として公刊した。共同研究のうち1件については、平成25年度春期全国大学国語教育学会でラウンドテーブルを企画する予定である。

II-3. 大学運営

1. 目標・計画

- ① 学部入試委員会委員をはじめとする各種委員会委員として、大学業務に携わる。
- ② 教育実習生の授業は可能な限り参観し、受け入れ校園との関係を図る。

2. 点検・評価

- ① 学部入試委員会委員として、センター試験、及び学部入学試験が円滑に運営・実施されるように尽力した。
- ② 附属校での授業参観と指導助言を教育実習生に対して行うとともに、附属校園の国語科担当教員と学部附属連絡協議会を実施して情報交換や連携を図った。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ① 研究発表会・授業研究会等の指導助言に積極的に参加し, 附属学校教員との連携を図る。
- ② 現職教員による研究会への参加, 教育支援アドバイザーの登録, 授業研究会への参加など, 地域と連携する教育・文化活動に積極的に参加する。また, 教員免許状更新講習, 10年次研修等, 地域から要請される講座を開講する。

2. 点検・評価

- ① 附属小学校の校内研究会、研究発表会の指導助言などを通して研究交流を行うとともに、学部附属連絡協議会で各校園教員と情報交換を行った。また、教育実習の授業参観も積極的に行った。
- ② 現職国語科教員との月例研究会の開催、教育支援アドバイザーの登録・指導、地域で開かれる研究大会への指導・参会等、地域と結びつく教育・文化活動を積極的に行った。
- ③ 教員免許状更新講習「国語科教育におけるリテラシーのとらえ方」、10年次研修「国語科教材研究の方法と実際」を開講した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

- ① 校内研修会(3校)、第59回美馬夏期国語教育研究集会、教員免許状更新講習、10年次研修などの講師を務め、地域の教育活動との連携を図った。
- ② 科研費について、代表研究1件、共同研究2件の計3件で外部資金を獲得し、研究を進めた。